

豆の町本別を有名にするプロジェクト

松嶋玲花 岡本小堵音 岩崎暖永 三浦真翔香

概要

若者に、豆への興味が向くようなスイーツを提案するプロジェクト

1. はじめに

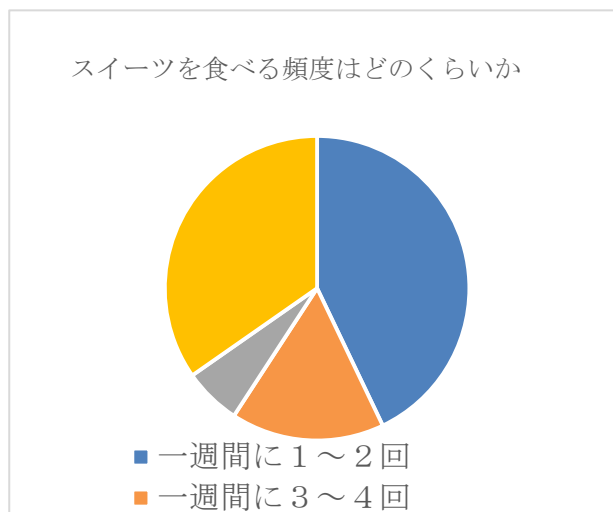
豆の町なのに、豆が苦手な人、興味がない人が多く、豆を使ったスイーツを作ることで、豆への見方が変わるのではないかと考えた。

2. 課題について

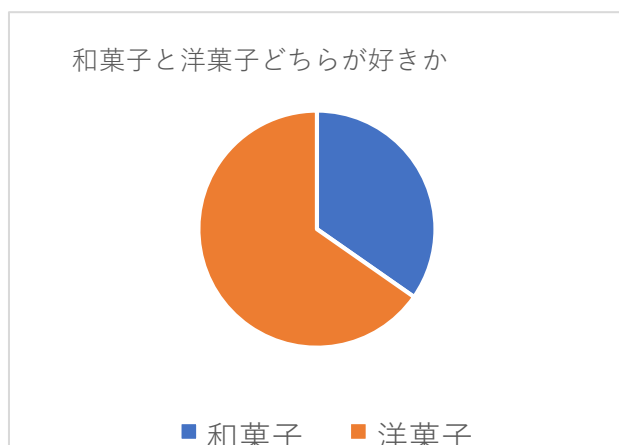
若者に豆をアピールするには、どうすればよいのだろうか。

3. 現状分析について

現状分析として、本校生にアンケートを取ったところ、洋菓子が好きという人が多く、スイーツを1週間に1～2回食べる人が多いことが分かった。



【グラフ1：スイーツを食べる頻度】



【グラフ2：和菓子と洋菓子について】

4. 仮説について

本別町の特産品のキレイ豆を使ったスイーツを作れば、若者の興味が引くのではないかと考えた。

5. 解決策について

解決策として、プロテインや今流行っているソイミルクを使った飲み物や、アイス・スイーツの案が出た。最終的に、若者が興味が引くと同時に、本別町のキレイ豆を有名にするため、キレイ豆を使ったスイーツを作ることが有効であると考えた。

6. 成果と課題

【成果】

- 改めて豆について様々なことを知ることができた。
- 実際に自分たちで一から考えたものを試作として作ることができた。

【課題】

- 今後、本格的に商品化するにあたって、自分たちの案を本別町のお菓子屋さん「かねもり」に提案にいくが、洋菓子店「かねもり」さんがこの提案に同意して頂けるのか。
- 販売運営はどうするべきか。
- 高校生の行動力を考え、今後の進め方を検討することが必要だと考える。

7. まとめ

今回、初めて一から商品開発をした。意見が出ず、悩んだり、時には意見のくい違いのようなこともありました。それでも試作の段階までいくことができた。

今後は班員とのスケジュールを調整し、「かねもり」さんの協力を得ることができれば、少しずつかもしれないませんが、商品化に向けて進んでいけるといいなと思っている。

今回の活動に携わって頂いた藤井さん、コーチの方々本当にありがとうございました。

豆の町本別を有名にするプロジェクト

岡本小渚音 岩崎暖永 松嶋玲花 三浦真翔香

概要

豆に興味を持ってもらい、豆が苦手な人でも気軽に食べられるようなスイーツを作ろうというプロジェクト

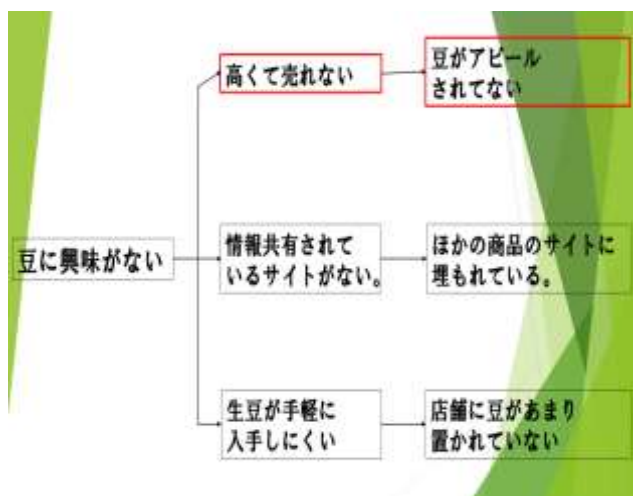
1. はじめに

私たちがこの課題をテーマにしたきっかけは、クラスの中で豆が苦手という人が多いと知ったことでした。現に、給食に豆を使った料理が出ると、きまって豆だけを残す人が多くいました。そこで、本別町といえば豆が特産品なので、まずは多くの人に興味を持ってもらい、苦手な人でも気軽に食べられるようなスイーツを作り商品化すれば、もっと本別町が有名になるのではないかと考えた。

2. 課題について

ロジックツリーを利用して、課題の分析をしたところ本別の課題としては、豆の町なのに豆に興味がない人が多いことが一番の問題として考えられる。(図) しかし、11月の成果発表会で、「キレイ豆はおいしいのですが、とにかく高いので店に行っても買うのを控えると町外の人からよく言われます。」という意見があった。

そこで私たちは身近なところで本別町の豆がアピールされていないと感じ、商品化するにあたっていくつかのアンケートを全校生徒に取った。



【図：豆についてのロジックツリー】

3. 現状分析について

商品開発をする中で、始めに全校生徒50人に2つのアンケートをとった。

1つ目は、和菓子と洋菓子どちらが好きかというアンケートをとったところ、50人中36人が和菓子と回答し、64人が洋菓子と回答した。(グラフ1)

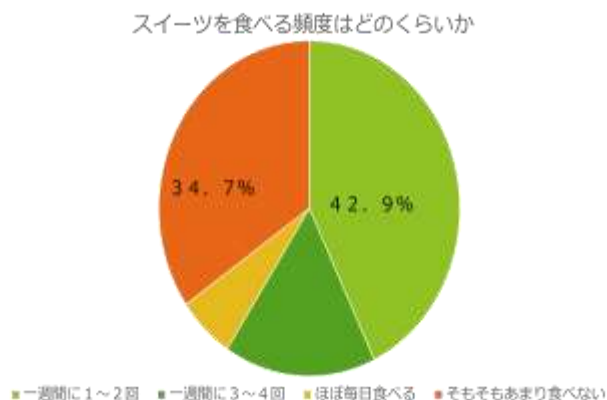


【グラフ1：和菓子と洋菓子について】

2つ目に、スイーツを食べる頻度はどのくらいか、アンケートをとったところ、1番多かったのは1週間に1～2回だった。(グラフ2)

このような2つの結果から、スイーツを食べる頻度は多いような傾向にあると感じ、その中でも洋菓子のほうが人気だったため、本別町の特産品であるキレイ豆と洋菓子をコラボしたら豆が苦手な人でも食べられるのではないかと考えた。

【グラフ2：スイーツを食べる頻度について】



4. 解決策について

そこで考えたのは、若者を対象に豆に興味をも

ってもらふこと。また、本別町のキレイ豆を有名にするため、キレイ豆を使ったスイーツを作り興味を引くことが有効であると考えた。

5. 成果と課題

【成果】

実際に本別町内の洋菓子店「かねもり」に行き、タルトを作るにあたり、現実的かどうかアドバイスをいただいた。そのアドバイスを踏まえて、コーチの協力のもと試作をしました。タルトやカップケーキの他に、案はないか話し合い、結果として、洋菓子店「かねもり」にも販売していて、1番現実的な焼きドーナツを作った。

焼きドーナツは2種類考案し、1つ目はカロリーを考えた女性も気軽に手に取りやすいような生地には豆腐を使ったもの。2つ目に生地には豆腐は使わず、薄力粉やバターを使った焼きドーナツを考案し、どちらが食べやすいのか試作しました。また、生地の中にキレイ豆を入れたり、細かく刻んだ甘納豆を混ぜたりと工夫をして見ました。

そして、できた生地を半分に切って、その間に豆乳クリームや本別町で作られたあんこなどを入れて様々な種類の焼きドーナツを作ることができました。



【写真：焼きドーナツを作っている様子①】

【課題】

- ・今回試作した焼きドーナツを「かねもり」に行き、アドバイスを受けてみること。
- ・クリームやあんこなどが少し甘すぎたように感じたので、気持ち甘さ控えめで試作することが課題としてあげられる。



【写真：焼きドーナツを作っている様子②】

6. まとめ

活動全体を通して、学んだことは他の人と協力して1つのことに取り組むことの難しさといろんな視点から見て考えることの重要性です。

私は人に頼ることや協力して物事を行うことが普段から苦手です。今回の探究活動もすべて1人でやろうとしました。しかし、1人の力じゃうまくいかないことも多くあり、すごく困りました。

1つの視点からだけでなく様々な視点から考えることや他の人からの意見にも耳を傾けながら進め、自分たちの立てた課題と重ねながら取り組みました。

まだまだ多くの課題と反省がありますが、時間の短い中でなんとか試作ができたり、「かねもり」まで行ってアドバイスをもらうなど、私たちが困らないように指導してくださった藤井雅巳さんをはじめ、コーチの皆様には感謝しています。長い間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



【写真：試作した焼きドーナツ】

豆の町本別を有名にするプロジェクト

岩崎暖永 岡本小堵音 松嶋玲花 三浦真翔香

概要

豆をあまり食べない人達に向けて豆に興味を持ってもらうこと。

1. はじめに

本別は「豆のまち」であるが、豆を好んで食べている若者や学生が少ない。そこで、若者に豆の良さや魅力を知ってもらうため豆から作ったスイーツを作り、実際に手に取ってもらいたいため、この探究活動を行うこととした。

2. 課題について

若者が豆を好んで食べていないことや興味を持っていないことに着目した。

3. 現状分析について

若者が豆を好んで食べていないことや興味を持っていないことを調べるために、本校生徒にアンケートをとった。

アンケート結果は、生豆や素焼き豆があまり好きじゃない人が半数近く占めていた。しかし、加工品なら食べられる人が多く、その中でスイーツなら興味を引くのではないかと考えた。

また、スイーツを試作するに当たって和菓子か洋菓子のどちらが好きか、アンケートをとったところ、和菓子より洋菓子のほうが好きということが分かった。

和菓子と洋菓子どちらが好きか



【グラフ：和菓子と洋菓子について】

4. 仮説について

本別町のブランド品であるキレイ豆を使用し、若者の目を引きそうなスイーツを開発することで豆を食べない人でも興味を持つのではないかと考えた。

5. 解決策について

解決策として、本別町のキレイ豆を使用した低カロリーでおいしいを目標としたスイーツを開発することで興味を引くのではないかと考えた。

そこで私たちは、焼きドーナツを作ってみて、本別町内の菓子店に商品化してもらい PR してもらうことが効果的ではないかと考えた。



【写真：試作した焼きドーナツ】

6. 成果と課題

【成果】

- ・いろいろなデザインの焼きドーナツを試作することができた。
- ・課題解決のため試行錯誤しながら取り組むことができた。

【課題】

- ・試作してみて、甘すぎたので甘いものがあまり得意ではない人も食べれるようもう、少し甘すぎないクリームを作り、食べやすくできると思った。
- ・試作段階までしか取り組めなく、商品化まで辿り着けずに終わってしまったので、町の人など

にも試食してもらいアドバイスをいただくことも含め今後取り組みたい。

- ・商品化するに当たって、お菓子のさらなるデザイン考案をすることが必要である。そのために菓子店のアドバイスをいただき、多くの若者たちに食べていただきたい。

7. まとめ

全体を振り返って、スイーツを開発するに当たって何度も最初から組み立てなおすことが多く、試作までとても時間がかかってしまったため商品化することができなかった。

今後、試作をもとに本別町内の洋菓子店である「かねもり」さんにアドバイスをもらいに行き、そして、商品化していきたいと考えている。

最後に、今回、携わってくださった、藤井さん、本別町役場 三室さん、JA 本別町 柳澤さん、地域おこし協力隊 南部さん、小池さん、本当にありがとうございました。

豆の町本別を有名にするプロジェクト

三浦真翔香 岡本小堵音 岩崎暖永 松嶋玲花

概要

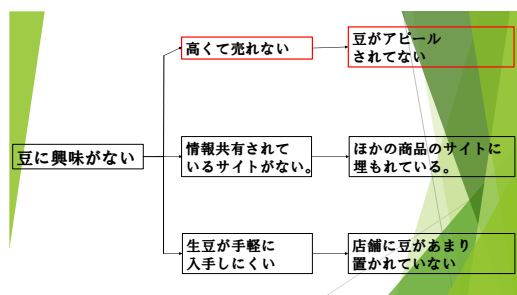
豆の町本別を有名にする。

1. はじめに

本別町といえば「豆」。そのイメージをもっと強く持ってもらうため、豆の良さを伝えられるスイーツを作り、たくさんの人に手に取ってもらい、豆の町本別を有名にすることができると考えた。

2. 課題について

豆の町本別を有名にするにはどうしたらよいのだろうか。



3. 現状分析について

現状分析として、全校生徒にアンケートを取った。その結果、洋菓子好きが多い、一週間に1から2回食べる人が多い事が分かった。豆のブランド品であるキレイ豆の売っている場所を知っている人が多いが、興味のある人が少ないことから加工品(スイーツ)なら興味がある、見た目やメニューによっては興味があるという事が分かった。

4. 仮説について

本別町の特産品のキレイ豆を使ったスイーツを作れば若者の興味を惹くのではないかと考えた。

5. 解決策について

解決策として、若者を対象に豆に興味を持ってもらい、本別町のキレイ豆を有名にするために、新たに取ったアンケートを取った。分かったことは、スイーツが好きな人が9割を占めていたこと、実際にスイーツなら興味を惹くという声があったので、キレイ豆を使ったスイーツを作り、興味を惹くことが有効であると考えた。

6. 成果と課題

[成果]

- ・カロリーを抑え女性でも気軽に食べられるスイーツの考案をすることができた。
- ・豆が苦手な人でも食べられるように、豆を生地に入れたり工夫して作ることができた。

[課題]

- ・実際に商品化まで進めることができなかったため、今後、洋菓子店の「かねもり」さんに置いていただき、イベントなどに出品して知名度を上げていきたい。

7. まとめ

今回の活動を通して、商品開発の楽しさを知ることができた。探究活動でしか体験することができないことがたくさんあるので、次の学年に継いでもらいたい。

今回の活動にあたり、ご指導いただいた藤井雅巳様、JA 本別町 柳澤真佐美様、本当にありがとうございました。